(一) 第五千八百八十六號 月曜日 京城日日新聞 大正九年八月三十日 (大正九年七月一日第三種郵便物認可)
年中無休刊
京城日日新聞

殖民地概説(三十二) 拓殖局編

第六章 殖民地の産業

第一節 農業

第三 樺太

一、土地 樺太は氣候寒冷の地なりと雖も肥沃の地尠からず、試驗の結果栽培し得べき作物亦尠からず、而して露領時代に於ては其の開發見るべきもののなかりしが帝國の領有後直に試驗の調査に着手し明治三十九年より農業移民を開始し同時に種子の給與、家畜の貸付、農事試驗場及種畜場の設置等大に農牧業の發達を奬勵したる結果、谷、内淵、留多加諸川の流域、…

三、農産物 農産物の種類は農事試驗場の試驗並に農民の耕作成績に徴するに本島何れの地方にも完全に成熟するものは大麥、燕麥、ライ麥、裸麥、馬鈴薯、豌豆、蠶豆、大根、蕪菁、牧草、甜菜、菜等の早熟種なり、又西海岸南部の比較的温暖なる地方に於ては黍、粟、玉蜀黍、大豆、小豆、菜豆等成熟す、次に果實類は須具利、醋須具利の如き小果樹に好適せり、而して本島に於ける作物收穫反別を見るに大正元年には四千三千餘町に過ぎざりしが大正六年に至りては九千七萬四千餘町に増加したり

本島の家畜は牧畜に適し且つ之が奬勵に努めたる結果牧畜を爲す者漸次増加するに至れり而して大正六年末に於ける民有家畜頭數は牛千二百二頭、馬三千二百八十頭、豚七百九十四頭にして其の他貸付家畜頭數は牛七百十頭、馬千三百五十九頭、豚十八頭なり

四、農事試驗場 樺太に於ける農事試驗場は農事試驗場及種畜場の二なり其の状況左の如し

(一)農事試驗場 本場は豐原の近傍並川村に分場は西海岸泊居に在り其の事業の重なるものは農事の改良及改良に關する各種の試驗調査、種苗の育成配付、農事に關する指導奬勵等なり、而して本場に於ては普通作物及特有作物の試驗を主とし分場に於ては特に果樹類及西海岸に於ける特殊作物に就き之が試驗を施行す

(二)種畜場 本場は小沼に在り其の事業の主なるものは家畜の種付、畜産製造試驗、農民に貸付すべき牛馬の一時飼養、畜産に關する指導奬勵等なり

第四 關東州

一、土地 關東州は滿洲の一角東南部に突出し丘陵地帶に屬し土地概ね險阻なり、滿鐵附屬地は遠く滿洲の中部に…

…作農は一萬二千五百三十二戸、人口三千三百六十七人にして内日本人官有地の貸下を受け耕作を爲す者九十五戸、三百五十五人を除けば支那人なり、即ち總計四萬六千六十八戸、三十四萬二千百二十三人を算す

地方制改正(十二)

第二章 地方税及夫役現品

第十五條 地方税は道内に住所を有する者に對し之を賦課す

三月以上道内に滯在する者に對しては其の滯在の初に遡り地方税を賦課することを得

第十六條 道内に住所を有せず又は三月以上滯在することなしと雖も道内に於て土地家屋物件を所有し使用し若は占有し道内に於て營業所を設けて營業を爲し又は道内に於て特定の行爲を爲す者に對しては其の土地家屋物件營業若は其の收入に對し又は其の行爲に付地方税を賦課することを得

第十七條 納税者の道外に於て所有し使用し占有する土地家屋物件若は其の收入又は道外に於て營業所を設けたる營業若は其の收入に對しては地方税を賦課することを得す

第十八條 國又は公共團體に於て公用に供する土地家屋物件及營造物に對しては地方税を賦課す…

東京より

政界茶話

社外船合同乎

創作 逆流 (二七) 森 漱波

內外電報

暴慢なる排日決議

紳士協約廢止—寫眞結婚禁止移民禁止—市民權の褫奪

加州在郷軍人團はサンチアゴに開かれたる同大會に於て出席代表者一千二百八十名の滿場一致を以て加州に於ける排日遂行決議文を可決し其の目的を貫徹する爲め有らゆる手段に訴ふべき旨宣言せり決議の要旨は左の如し（桑港來電）

一日米紳士協約を廢止すること
一寫眞結婚を禁止すること
一日本移民は絕對に禁止すること
一亞細亞人に米國市民權を附與せざる政策を確立し其の目的を以て法律規定を通過せしむること
一米國生れの日本人にして獲得せる市民權を褫奪する爲め米國憲法を修正すること

埃及獨立に共鳴

獨逸經濟問題重視

露經濟發展計劃

禍首引渡飽迄拒絕

日軍撤兵と共に支那商人引揚

警保局長渡鮮

市帖子の回收

財政的併合完成（下）

朝鮮關稅制度改正に就て 河內山財務局長談

相當對策

張巡閱使

朝鮮移入稅

總督府財政

移民は徐々の仕事として東拓は土木事業へ

朝鮮人に適應

性質善良なる

氣象臺員任命

水力電氣事業

平元三線問題

學校組合費等

東蒙古工業界の爲に試驗的黎井計劃

蒙古工業の將來に大關係あり

附隨工業

優良水質

四平街に四洮鐵路工事

興盛公司事業

不景氣がも少し續けば物價は安くなる

朝鮮殖産銀行頭取 有賀光豐氏談

世界的の排日熱

反日的

解體し

牽制せ

事象の

義務を

鮮人國籍と支那

移出牛皮の前途

平壤驛とホテル

興業鐵道局換說

平壤市街鐵道に振替繼承?

農具會社

拂込を要

存廢を決

京取の前途と株界

一人一職主義

杉井民治郞氏談

平和招來策凝議

革新會も公年會も解散乎

勞銀再び昂騰

感情を一掃

意思の疎通

尼港殉難弔慰金

鴨綠江木材不況

風塵錄

進退谷まつた バルチザンの殘黨

首領の銃殺後虐殺は中止 ブラゴエ政府に馬の要求

浦鹽來電に依ればゲルリン（アムール河上流）より良民殺戮の嫌疑の下に不逞分子はポツフスキー一派と共に集め來れる者の說に依ればトリヤのもの ビーチン銃殺後十七歲未滿二十五歲迄の男子は解放せられたり而して ゲルリン附近にては糧食缺乏し住民は日本軍の來襲を恐れ目下ドルチザンの主力は一千內外なりと而してトリヤビーチン、ニーナ以下二十八名死刑に處せられたり……

須磨や明石の風光に 強き印象を殘して

米議員團一行京都着 奈良や各所の觀光に一週間滯在

觀光の米國議員一行は新緑の……瀬戸內海の絶景に……

思を殘し

堅き握手

……京都ホテルに入り……京都奈良の各所を觀光すべしと（大阪來電）

新竹廳下に强蕃襲來

沼田中尉ら二巡査戰死す

新竹廳下大湖ケンヤ分遣所……巡査三名は二十五日蕃人……沼田中尉三巡査は即死し……（臺北來電）

新獨逸の怪人物

最大危險人物とも 突如出現したステンネス 新カイゼルとも評さる

縱橫無盡

傍若無人

一大波瀾

各部擔當

馬鈴薯

蒙古に有望な 栽培に頗る好適 澱粉製造最も妙

平民ホテルの建設

鮮滿の宿賃が高いからと 鮮滿主要驛十數ヶ所に

拾三圓の宿賃が二三圓ですむ 汽車ホテルの案もある

大阪の……近く鮮滿各地の主要なる市街に平民ホテルを作つて……

法外に

寢室車

簡易ホテル

平均率

地名	宿泊料	
釜山	六、〇〇〇	四、〇〇〇
京城	八、〇〇〇	六、〇〇〇
安東	五、〇〇〇	三、五〇〇
奉天	八、五〇〇	五、五〇〇
大連	七、〇〇〇	五、五〇〇
長春	〇、〇〇〇	八、〇〇〇
哈爾賓	一二、〇〇〇	九、〇〇〇
平均率	八、〇〇〇	五、八〇〇

實情に

設備を

怪奇な龍雲

兇變の前兆と鮮人懼る 鎗山の上空に

勞働者としての京城の女（四）

花薫る赤酒の勞働

萬綠叢中紅一點のホテル給仕と エプロンに輝くカツフエーの女 ホテル給仕の昔ローマンス

銀色

洋食

弊害

廢止

女優

寺澤

可愛

食堂

百名

運命

月收

鮮料理の大流行（上）

鮮滿地方で無代價同樣の品が 內地に移出すれば數倍になる

成金連は

好奇心を

一貫匁を

京濱方面

猫（三）

廣告を始めた 國香

興をひく美人投票

新顔がゾク〱現はれ 斥候戰は開始された

第二回 二十九日正午迄

票數	地	家	氏名
八〇票	新	紅家	華蝶
七八票	京	花柳	伊達清
七二票	中	新花月	吉奴
七〇票	京	九家	玉良
六五票	京	千登世	一龍
五六票	中	花本	菊千代
五〇票	京	千歳	小萬
四九票	京	千登世	小よし
四八票	中	花月	波奈奴
四三票	新	長中	ぼん太
四二票	中	新花月	桃太郎
四〇票	中	吉田家	梅若
三九票	東	〇丸	丸千
三八票	京	菊水	[illegible]
三六票	京	高砂	[illegible]
三五票	京	千登世	[illegible]
三二票	京	大和家	[illegible]
三二票	中	書羽家	秀千代
三一票	京	花水	[illegible]
三〇票	新	仙米	[illegible]
二七票	京	[illegible]	[illegible]
二六票	新	紅家	[illegible]
二六票	京	はてい家	[illegible]
二五票	新	丸家	[illegible]
二四票	新	はてい家	小[illegible]
二二票	京	千歳	[illegible]
二〇票	京	千歳	染[illegible]
二〇票	東	花仙	小[illegible]
二〇票	京	菊水	菊[illegible]
一八票	東	花仙	[illegible]
一六票	新	紅家	[illegible]
九票	中	新花月	[illegible]
九票	京	千歳	吉[illegible]
八票	京	大和家	常[illegible]
五票	新	花房	小[illegible]
			花[illegible]

（五票以下略す）

須磨子の記念

注射證明がないので逆戻り

不注意の祟り

小兒の怪我から親々の喧嘩

鮮馬の鈴

訂正

本紙前號に……氏死去とあるは誤りに付訂正す



〔五十八〕

旭亭櫻山口演

車を運ぶ絶壁の上

甲「サア宜いか」乙「宜し」二人車の前に立つて綱を引き、二人が後へ廻り、照手は横手へ縋かりと捉まつて居ると眞兒姫の三人が力に任せて引出して木の根岩角など邪魔になるものがあると、腰に差した斧のやうなものでポン〱打拂つて道を附ける、之を見て照手は恐ろしくなつて獨り照「貴所方は斯ういふ事を遊ばして大丈夫でございますか」甲「ナニ心配するな」照「其れでも此には道が無いではございませんか」甲「道があらうが無からうが、此の車を上へ上げてすらひさへすれば、東光坊様に言ひ付かつた役目が濟むんだ、決して心配しなさるな」と如何も三人の者でも生へて宙を飛ぶかと思ふやうな調子の……も氣の故かフワ〱浮み上るやうな心地になつて晒れながら是れは不思議と思つて居る中に、到頭其の絶壁の上へ三人の力で車を引上げ 甲「サア女中さん、モウ是れで大丈夫だ」照「有難う存じます」と前にヒレ伏して禮を致し、ヒョイと頭を擧げて見ると、遥はそも如何に、今まで見いた三人の姿は消へて失せました 照「是はしたり、今是れに御在でなされた樵夫の方々、何方へ御越しになりました、有難う存じます、何方へ御出でとなりました」と彼方此方を見廻す中又もやヅシン〱と山響きが致すと思ふと、遥か彼方の大きな杉の木の上に顯はれて×「ヤア〱照手、能く承はれ我こそは熊野三社権現の仕姫、餓鬼病に罹れる小栗小次郎助重の孝と汝の貞とを感ずる餘り、是迄は導き遣はしたり、熊野の湯へ掛れば餓鬼病の不思議なし、勉めよや照手、勉めよや照手……」其の聲が止んだと思ふと、杉の木がガサ〱と動りました、照手は……手を支へ、……て〱……の導きにてあつたるかと恰も心に一所に……し、有難涙を流して居ります處へウンと笈木を背負ひ込んだ一人の老人草鞋を背負つた十一二の子供と一所に何か話しながら此の道を登つて參りました 照「熊野権現の方へは何う參つて宜しうございます」翁「其れはな、此の突當りに見えるのが権現様だや、其の左の方が東光坊様だに依つて、其處へ行つて御願ひをしなさるが宜い、其れは病人かえ」照「左様でございます」翁「マア見れば色も眞黒髪の毛も抜け、宛で餓鬼のやうだが、何うなすつたのだ」照「……餓鬼の病に罹り、熊野権現の湯へ掛るが宜いと聞いて……」翁「ア、然うかえシテ何うしてお前さん斯んな所へ車を引上げなさつたな」姫「實は此の絶壁で途方に暮れて居ります處へ、御三人の方が御見えになり、其の御力で引上げて下さいましたが、御禮を申上げて居る中に御三人の姿は搔き消すやうに失しつて了ひました」翁「オヽ御婦人、御山へ登つてそんな事を言はつしやるな、其れは〱勿體ない、若し人に尋ねられたら、只神の力で是れまで上りましたと云つて置きなさればよい、決して然ういふ事を云つてはならない、私が東光坊さまの前まで御連れ申して上げやう」姫「有難う存じます」と照手が車の綱を取つて引くと若い人と子供とは、後へ廻つて押して呉れます、斯うして東光坊の前まで來ると、中から三四人の坊さんが出て參つて○「何んぢや〱」翁「熊野権現の湯に掛つて病を癒したいといふ方がお見えになりました」○「オ、此の女中さんか」○「左様でございます」



讀者の聲

投書歡迎

演藝案内

來る八月貳十七日より特選新三大映畫

本町一丁目 日活 電話五九七番 喜樂館

納涼實寫 吉野川の鮎漁

滑稽 ポツプスの決闘

日活京都派特別映畫 怪傑 尾上松之助

狸穴御殿 全五巻

ナムバーワン 全六巻

梅咲く宿 全五巻

櫻井町 電話八七三 大正館

八月廿七日より

人間タンク

鎭西八郎爲朝